

江南ロータリークラブ

Weekly Report

2026-27



持続可能なインパクトを生み出そう

創立 / 1965年5月22日
例会日 / 毎週木曜日 PM12:30~
会場 / 江南商工会館1F 大ホール
江南市古知野町小金112
0587-54-8132

事務局 / 江南商工会館 別館1F
TEL / 0587-55-6554
FAX / 0587-59-7720
URL / <https://www.kounan-rc.com/>
Mail / kounanrc@beach.ocn.ne.jp
会長/近藤 道磨 幹事/佐藤 弘夫 会報委員長/青山 英明



2026年(令和8年) 10月1日(木)晴れ 第2886回(当年度第10回)例会

点 鐘 会長 近藤 道磨 君

司 会 SAA 南村 朋幸 君

国歌斉唱

ロータリーソング斉唱 「奉仕の理想」 ソングリーダー 野々垣 裕司 君

四つのテスト斉唱 菊 貴世 君

— 言行はこれに照らしてから —

1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

ゲスト及びビジター紹介



国際ロータリー第2760地区 米山記念奨学委員会
委員 浅井 孝介 様



米山奨学生
エギアザリャン カリネさん



(株)福田商店 代表取締役
福田 壽哉 様



皆さん、こんにちは。

先週、名古屋でカリネさんを始め2760地区の米山奨学生53名が一堂に会する会合が開催され、杉浦米山奨学委員長、田中カウンセラーと一緒に出席してきました。ここで感動したのは、米山奨学生の皆さんが実に流暢な日本語で会話されていたことです。コミュニケーション能力が素晴らしいです。奨学生もロータリアンもにこやかに言葉を交わして素敵な時間を過ごしました。笑顔でいると笑顔は伝染しますね。

米山奨学生とロータリアンのやりとりを観て、その時ふと思い出した言葉があります。『和顔愛語』です。「和顔」と書いて「わげん」と読みます。「和顔」～和やかな顔、そして「愛語」～愛のある言葉。人とコミュニケーションを取るとき、和やかな顔で、優しい眼差し、そして思いやりのある温かい言葉をかけることで、接する相手の心を和ませ、自分自身の心も穏やかで幸せな気持ちになります。

人と人との間に深い心のつながりや円滑なコミュニケーションを築くために『和顔愛語』「和やかな顔で、思いやりのある言葉がけ」は大切だと思います。常日頃、意識して実践してみてもいいでしょうか。

始めに「和顔」の実践です。まずは、相手に安心感を与える表情を心がけます。人と話すときや挨拶をするとき、ほんの少しだけ口角を引き上げる意識を持ちます。「1ミリ」口角を上げるといいようです。そして、アイコンタクトと会釈。目が合ったときに、軽く微笑みながら会釈をします。これだけで「あなたを歓迎しています」というサインになります。

次に「愛語」の実践です。皆さんは家族や職場の人に「おはようございます」とか「お疲れさま」とか「ありがとう」といった挨拶や感謝、労いを言葉にしているでしょうか。最近、家庭で思いやりのある言葉をいくつか使っているでしょうか。胸に手を当てて今朝や昨日のことを思い出してみよう。

「ありがとう」「おはよう」「おやすみ」「ってきます」「いってらしゃい」「ただいま」「おかえりなさい」「いただきます」「ごちそうさま」といった言葉。8個以上ある人は一般的でしょうね。6つくらいだと普通かな。2つも言っていない人は家庭崩壊ですね。

更に「おはようございます」に「〇〇さん、おはようございます」と名前を添えたり、「ごちそうさま」のあとに「ああ、美味しかった～!」と気持ちを添えるだけで相手に親しみや感謝している気持ちが伝わります。是非皆さん、実践してみてもいいでしょうか。

思いやりのある言葉をかけるだけでなく、聴く姿勢も「愛語」になると思います。自分の話ばかりするのではなく、相手の話を笑顔で「うん、うん」と肯定的に聴くことも、立派な和顔愛語の実践だと思います。

皆さん、「和顔愛語」を実践して、ロータリーを楽しみましょう！

和顔 愛語

米山奨学金授与



国際スピーチコンテスト優勝 レプリカ授与



8月23日(日)開催の「第31回国際交流フェスティバル 日本語スピーチ大会」で見事優勝されました。返還される優勝トロフィーに代わり、当会から優勝記念の盾を贈呈しました。

幹事報告 -別紙-

幹事 佐藤 弘夫 君

祝 福

親睦活動委員 成田 志穂君

出席報告

例会運営委員 菊 貴世 君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
54名	45名	9名	83.33%

ニコボックス

例会運営委員 菊 貴世 君

国際ロータリー第2760地区 米山記念奨学委員会 委員 浅井 孝介 様

本日は米山記念奨学会の卓話をさせていただきます。
宜しくお願い致します

近藤 道磨 君、木本 寛 君、佐藤 弘夫 君、田中 健 君

国際ロータリー第 2760 地区米山記念奨学委員会委員 浅井 孝介 様

米山奨学生 エギアザリャン カリネ さん

ようこそ江南ロータリークラブへ 本日の卓話、よろしくお願い致します。

福田 壽哉 様

ようこそ江南ロータリークラブへ

**岩井 正彦 君、倉知 正憲 君、松岡 一成 君、富永 典夫 君、伊藤 靖祐 君、片平 博己 君、
岩田 静夫 君、長瀬 晴義 君、波多野 智章 君、中村 耕司 君、富田 清孝 君、尾関 育良 君、
永田 広光 君、岩田 進市 君、早川 一三 君、三輪 慎一郎 君**

地区米山記念奨学委員会委員 浅井孝介 様(一宮 RC)

米山奨学生 エギアザリャン カネリ さん、

おかえりなさい ようこそ江南ロータリークラブへ

本日の卓話宜しくお願い致します。

福田 壽哉 様、ようこそ江南ロータリークラブへ！

杉浦 賢二 君

地区米山記念奨学委員会 浅井孝介様 ようこそ江南RCへ

カリネさん 今日の卓話楽しみにしています

山崎 博征 君

本日 45 才になりました 人生やっと半分です！

もっとがんばります！

松野 拓也 君

浅井様 ようこそ江南ロータリークラブへ

ロータリー大活躍ですね。他団体ではあまりやる気がなかったのに

伊藤 由香 君

アジア大会女子ビーチバレーで成信 OG の松本恋（れん）・穂（のん）姉妹チームは惜しくも
ベスト 8 となりました。

今後モロス五輪に向けて皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

青山 英明 君

51 才となりました。これからもよろしくお願い致します。

「ロータリー米山記念奨学事業について」



国際ロータリー第2760地区
米山記念奨学委員会
委員 浅井 孝介 様

米山記念奨学事業は、日本のロータリー独自の事業として、日本で学ぶ外国人留学生を支援する奨学制度である。名称は「日本のロータリーの父」米山梅吉氏に由来し、1920年に日本初のロータリークラブである東京RCを創立した同氏の逝去を機に始まった基金は、創設70年を超えた。これまでに136の国と地域、累計25,496人を支援し、今年度も967人の留学生が日本の大学で学んでいる。奨学生には世話クラブとカウンセラーがつき、例会や地域行事での交流を通じて「人を育てる」ことを重視する。家庭状況や経済状況を採用評価の対象にしない点も特徴である。

この事業を支えるのは会員の寄付である。寄付金総額は年間12億9,516万円で、支出の97%が事業費（奨学金など）に充てられている。だが、直近の決算では寄付金収入が約3,500万円減少し、課題が浮き彫りになった。寄付には、全会員が半期ごとにクラブを通じて納める「普通寄付金」と、金額や時期の決まりなく任意でできる「特別 寄付金」の2種類がある。特別寄付金は寄付総額の約7割を占め、寄付額の約4割が所得税から控除される税制優遇に加え、累計3万円で準米山功労者、100万円超でメジャードナー（金製ピンバッジ）といった表彰制度も受けられる。法人寄付や遺言寄付の選択肢もある。当地区の平均寄付額は15,193円（全国46地区中14位）、特別寄付者割合は36.1%。地区の寄付者率は割り振られる奨学生数にもつながるため、まず50%を目標にお願い致します。

「奥深き日本の文化」



エギアザリャン カリネさん

皆さん、こんにちは。エギアザリャン カリネです。

本日は「奥深き日本の文化」というテーマで、私が日本に来て実際に体験し、感じたことをお話しさせていただきます。私はロシアから日本に来て、日々多くの発見をしています。その中でも特に印象に残った、飲み会、トイレ、車文化、そして人々の配慮について、順にお話ししていきます。

まず、日本の文化として真っ先に思い浮かんだのが「飲み会」です。

日本に来る前は、ただお酒を飲むだけの場だと思っていましたが、実際は違いました。そこには独特のコミュニケーションの取り方や、上下関係、そして「場の空気を読む」という奥深い文化があることに気づかされました。

ロシアの飲み会では、自分の意見をはっきりと言うことが多いですが、日本では周りの様子を見ながら、相手を立てるような発言が求められます。最初は戸惑いましたが、今ではこの「場の空気を読む」という技術は、円滑な人間関係を築くための素晴らしい知恵だと感じています。後、自分は感じたのが、研究室の飲み会で照れ屋の子たちも勇気を出して会話したりするから、すごく親しい雰囲気になって楽しく時間過ごせます。

次に紹介するのは「伝説のトイレ」です。

ロシア人にとって、日本のトイレはまさに不思議で驚きの技術の塊です。ウォシュレットはもちろんのこと、温かい便座や擬音を流す機能など、至れり尽くせりの技術が詰まっています。

特に「音姫」という、周囲に聞こえないように水音を流す機能には驚きました。これは単なる機能ではなく、周囲への気遣いから生まれた日本独自の文化だと感じています。

そして、日本の文化といえば、車文化、特に「JDM (Japanese Domestic Market)」も外せません。ロシアに住んでいた頃は、日本に來ればスポーツカーに囲まれた生活ができるだろうと勝手に想像していました。しかし、実際に來てみると、街中で見かけるのは可愛らしい軽自動車やファミリーカーばかりで、少し意外でした。

ですが、夜の高速道路の高架下に集まる車たちの迫力や、洗練されたデザインの JDM 車は、海外でも絶大な人気を誇っています。実際にその熱気に触れることができ、日本に來て良かったと心から思いました。

日本に來て驚いたことの一つに、「一人ひとりへの配慮」があります。

バスに乗っていると、車いすに乗っている人やベビーカーを持っている人がいたら、固定するためのベルトが備え付けられているのを見て、日本社会がいかに細やかな配慮で成り立っているかを実感しました。

運転手さんが率先して手伝い、スロープをかけ、安全を確認する姿は、まさにプロフェッショナルです。このような細やかな配慮が、誰もが安心して暮らせる社会を作っているのだと感じました。

一方で、日本人は冷たいと思う時もあります。一番記憶に残っているのが、バスでの出来事です。

つえを持つおばあちゃんがいて、視力がすごく弱く、バスを降りるときに壁が見えなかったのです。それでゆっくりゆっくり手を伸ばしながら壁を探し、足で階段を探したりして降りようとしていました。でも、そばにいた誰一人として、そのおばあちゃんに手を貸して手伝おうとしなかったのです。

最初は「なぜ助けないのか」と冷たく感じました。しかし、後から考えると、これは冷たさではなく、相手の自立を尊重する気持ちからくる行動なのだとわかってきました。相手に迷惑をかけないための「礼儀」なのです。一見冷たく見えても、実は相手を尊重する気持ちからくる行動なのだと理解しました。この文化の違いを理解するには、時間がかかりました。

また、ロシアで大学に入って一回もやったことなかったのですが、日本で研究室を私たち学生が毎週片づけます。

自分の使った場所を自分できれいにするという習慣は、責任感を育み、周囲への感謝の気持ちを忘れないという、素晴らしい日本の文化だと思います。ロシアでは掃除は専門のスタッフが行うのが一般的なので、最初は驚きましたが、今ではこの習慣がとても好きです。自分たちの環境を自分たちで整えることで、研究への集中力も高まる気がします。

ここで少し視点を変えて、私の母国であるロシアについてお話しします。

よく「ロシア人の女性」と聞くと、どのようなイメージを持たれるでしょうか？金髪で、目が青い背の高い女性でしょうか。しかし、このスライドにあるように、ロシアは非常に多民族国家であり、地域によって民族も文化も全く異なります。

また、歴史の中で血もすごく混ざってきましたから、平均的なロシア人は目が青いんですが、髪の毛は茶色のほうが多いんですよ。ロシアはまさに「民族のモザイク画」なのです。

日本人から見たロシアのイメージといえば、やはり「お酒の文化」が強いかもしれません。

ウォッカを飲むイメージを持たれることが多いですが、実際にはお酒に対する向き合い方も地域や家庭によって様々です。

例えば、モスクワでは法律で夜 11 時から朝 8 時まで、スーパーやコンビニでお酒を買うことができません。これは、お酒によるトラブルを防ぎ、人々の健康を守るための規則です。

また、ダゲスタンやチェチェンといった地域では、宗教的な理由から、そもそもお酒がほとんど手に入らない場所もあります。ロシアは非常に広く、多様な文化を持つ国ですので、お酒に対する考え方も一律ではないのです。

また、ロシアに対して「どこも寒い」というイメージを持たれる方も多いでしょう。

確かに冬は厳しいところがありますが、ほぼ雪が降っていないところもあります。この写真のように、美しい雪山や、整備された遊歩道など、四季折々の豊かな自然があります。寒さの中にも、人々の温かさと美しい景色が広がっているのです。ロシアの多様な気候と風景も、ぜひ知っていただきたいです。

さて、ここからは私の日常である「研究活動」についてご紹介します。

私は西澤研究室で、新しいレーザー光源の開発や、それらを最大限に活用した高精度光計測、次世代光通信、光量子工学に関する研究を行っています。

この写真は、研究室のメンバーと撮影した桜の下での一枚です。日本ならではの美しい風景の中で、日々研究に励んでいます。

私は具体的に「ガスの分光システムの開発」を行っています。

光周波数コムという技術を用いて、ガスの吸収スペクトルを高精度に測定するシステムです。周波数や波長ごとの強度を詳細に分析することで、環境計測や医療分野などへの応用が期待されています。

最後になりますが、日本とロシア、それぞれの文化に触れることで、私の世界は大きく広がりました。

日本文化の奥深さ、そしてロシアの多様性。それらを理解し合うことが、これからの国際社会において非常に大切だと感じています。

日本に来て学んだ「相手を尊重する気持ち」と「細やかな配慮」を、これからも大切にしていきたいです。

ご清聴、ありがとうございました。

点鐘 会長 近藤 道磨 君

本日の食事



(担当：会報委員会 大脇 伸二)